

第6節 地域資源を生かした活力あるまちをつくるために

6-1 みんなが愛着と誇りを持てる、地域の特色がきらりと光るにぎわいのあるまち

施策16 活力ある産業の推進

目的	対象	消費者，事業者，起業者
	意図	商店街がにぎわう・市内消費が高まる 企業活動が活発になる・市内の創業者が増える

✚ 施策の方向と基本的取組の体系

商店街の環境整備を促進し、その魅力を高めることで、魅力ある商店街づくりと市民の日常的な買物の利便性及び満足度を向上させます。また、地域経済を支えている中小企業の振興や創業支援を行うとともに、調布市の特性を生かした市内産業の活性化を図ります。

施策16	活力ある産業の推進
	16-1 にぎわいを創出する商店街の支援
	16-2 バイ調布運動（市内消費）の促進
	16-3 市内事業所・事業者への支援
	16-4 新たな創業への支援
	16-5 特性を生かした地場産業の振興

✚ 現状と課題

- 東日本大震災による影響や長引く景気低迷などの要因が重なり、市内経済を取り巻く環境は厳しさを増しています。
- 京王線連続立体交差事業による踏切の除却や道路交通ネットワークの形成により、物流が円滑化するとともに、今後、駅前広場や鉄道敷地、都市計画道路等の整備により歩行者空間が創出され、人の移動がスムーズになります。
- 調布市では、京王線連続立体交差事業を契機としたソフト・ハードが一体となったまちづくりを進めるため、平成24年3月に調布市中心市街地活性化プランを策定し、プランの着実

な推進に取り組んでいます。

- 事業所経営実態調査（平成22年3月）で把握した「商業活性化の支援」に対する期待を踏まえ、より一層の商業活性化に取り組んでいます。また、調査で多くの事業所の後継者に関する課題を把握しており、その対策が重要となります。
- 市民意識調査の結果では、「日常の買物が便利と感じている市民の割合」は減少傾向にあります。地域の商店街が地域の住民にとって便利で魅力あるものとなり、市民の満足度がより高まるよう、身近な商店街の活性化が求められています。
- まちづくりと一体となった買物環境の整備や、来街者増加のための継続的な商店街イベントの開催など、商店街ごとの来街者の特徴やニーズを踏まえつつ、様々な側面から地域に密着した取組を促進する必要があります。
- 民間ノウハウを取り入れた中小企業等の振興及び地域経済の活性化を図るため、平成24年2月に多摩信用金庫と「中小企業等支援に関する包括協定」を締結し、相互連携による市内中小企業へのきめ細かな支援に取り組んでいます。
- 活力あるまちであり続けるため、新たな創業の支援や市内産業を支える中小企業の経営基盤の安定と強化に努めるとともに、映画・映像関連企業の集積や大学との連携・交流など、市の特性を生かした産業振興を推進していく必要があります。

✚ 基本的取組の内容

16-1 にぎわいを創出する商店街の支援

◆商店街活性化への支援

商店会、事業者、商工会及び調布市が連携・協働し、市民の協力と理解のもと、商店街の活性化を推進します。商店街が開催するイベントや振興事業の支援に加え、地域資源を活用した観光施策とも連動させ、市内回遊性の向上を促進します。

◆商店街買物環境等の支援

来街者が快適で安心して買物ができる、商店街づくりを促進するため、街路灯のLED化やアーチの整備など、商店街が実施する買物環境の整備を支援します。また、買物が困難な方のために、事業者等との連携による取組を通じ、支援策を検討します。

◆中心市街地活性化の推進

調布市中心市街地活性化プランに基づき、旧甲州街道沿道のまちづくりの推進、映画・映像等の地域資源を活用した活性化、中心市街地の9つの商店会が連携して実施する活性化事業など、商工会・事業者等と連携して活性化を推進します。また、鉄道駅を中心にして新たに創出される商業施設等との連携、相乗効果による活性化を促進します。

まちづくり指標

まちづくり指標	現状値	目標値
日常の買物が便利と感じている市民の割合	70.5% (平成24年度)	80.0% (平成30年度)

基本計画事業

No.	60	重点3				
事業名	商店街活性化の推進	区分	継続	担当課	産業振興課	
事業の概要	買物環境の整備等を支援するとともに、来街者を増やしにぎわいを創出するため、商店会が実施するイベント事業等を支援します。					
年度別計画	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度
	○商店街のイベント支援 ○商店街の施設整備への支援 ○中心市街地活性化プランの推進 ○専門家による商店街活性化支援	○継続 ○継続 ○継続 ○継続	○継続 ○継続 ○継続 ○継続	○継続 ○継続 ○継続 ○継続	○継続 ○継続 ○継続 ○継続	○継続 ○継続 ○継続 ○継続
事業費(百万円)	51	50	47	47	47	47

16-2 バイ調布運動(市内消費)の促進

◆特色あるお店づくりの支援と市内消費促進による商業活性化支援

市内消費を促進するため、市報やホームページ、地域情報誌などを活用し、市内の特色あるお店のPRとともに、商工会・事業者との連携のもと、より多くの市民が市内での買物を楽しんでもらえるよう、「バイ調布運動(市内消費)」を促進します。

◆スポーツ祭東京2013を契機とした商業活性化の支援

スポーツ祭東京2013を契機として、調布市ならではのお土産のPRや販売促進の支援とともに、市内事業者による新商品・新製品の開発への支援に取り組みます。また、市内回遊性向上や商業活性化につながる各種のイベントを実施します。

◆福祉作業所と連携した特色ある商品開発と販路拡大の支援

市内消費の促進と福祉作業所の受注機会の確保を目指し、福祉作業所と市内事業者、農業者、商店会等が連携して、特色ある商品開発と販路拡大の促進を支援します。また、福祉作業所の商品、製品等のPRや各種イベントへの出展を支援します。

まちづくり指標

まちづくり指標	現状値	目標値
市内事業者(小売業)の年間販売額	1,964億円 (平成19年度)	2,100億円 (平成29年度)

基本計画事業

No.	61						
事業名	調布市商工会事業の支援			区分	継続	担当課	産業振興課
事業の概要	調布市商工会が実施する市内事業者の経営改善普及事業や地域産業の振興事業等を支援します。						
年度別計画	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	
	○調布市商工会の活動・運営支援	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続
	○「ハイ調布運動」の促進 ・(仮称)街なかウォーキング事業の支援	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続
事業費 (百万円)	29	29	29	29	29	29	29

16-3 市内事業所・事業者への支援

◆調布市商工会への支援

市内産業の発展に向けて、商工会の経営改善普及事業や地域総合振興事業をはじめ、商業部会、工業部会、建設業部会、青年部、女性部の部会活動を支援します。また、商工会と連携して市内事業所・事業者を支援します。

◆中小企業への経営支援

中小企業の経営基盤の安定と成長を支援するため、地域金融機関などの民間ノウハウを積極的に活用し、経営相談や各種セミナーの開催、商品開発・販路拡大等の支援や課題である事業承継を支援します。また、事業経営に必要な資金の融資をあっせんし、融資を受ける際の事業者負担の軽減を図り、経営の安定化を支援します。

◆中小企業への技術支援

商工会と連携して、市内中小企業が有する技術を生かした新製品開発の取組を支援します。また、電気通信大学の研究活動や技術などを生かした市内事業所への技術指導や連携などを支援します。

まちづくり指標

まちづくり指標	現状値	目標値
納税法人数	5,610 法人 (平成 23 年度)	5,800 法人 (平成 30 年度)

基本計画事業

No.	62						重点3
事業名	民間ノウハウを活用した中小企業等の支援	区分	継続	担当課	産業振興課		
事業の概要	事業承継、創業・経営支援、人材育成・人材確保支援、商品開発・販路拡大支援、商店街支援等、民間ノウハウを活用した連携事業の実施など、市内中小企業等を支援します。						
年度別計画	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	
	○事業承継支援	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
	○創業・経営支援	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
	○人材育成・人材確保支援	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
	○相互友好協力協定に基づく大学との連携事業	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
事業費(百万円)	3	3	3	2	2	2	

16-4 新たな創業への支援

◆創業に向けた支援

市内での新たな創業を促進するため、産業振興センターで、相談員による創業相談や創業に関するセミナーや講演会の実施などにより、創業を目指す市民を支援します。また、学官連携による電気通信大学の創業ノウハウを活用した創業支援も推進します。

◆創業者に対する支援

産業振興センター内のスモールオフィスで市内での創業を支援するとともに、商店街の空き店舗を活用した創業者向けの創業チャレンジ支援事業を実施します。また、コミュニティ活動を通じ、地域資源を生かしながら地域課題の解決を目指す、コミュニティビジネスの育成・支援を行います。

まちづくり指標

まちづくり指標	現状値	目標値
産業振興センターでの創業等相談件数	306件 (平成23年度)	700件 (平成30年度)

基本計画事業

No.	63						
事業名	産業振興センターによる新たな創業の支援			区分	継続	担当課	産業振興課
事業の概要	産業振興センターにおいて、相談員による創業経営相談や創業に関するセミナー・講演会の開催、スモールオフィスの貸出等、創業に関する支援を行います。						
年度別計画	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	
	○創業経営相談	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
	○創業経営支援セミナー	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
	○創業支援施設貸出	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
事業費(百万円)	9	9	9	9	9	9	

16-5 特性を生かした地場産業の振興

◆映画・映像関連企業と連携した地域活性化

調布市の特性を生かした産業振興を図るため、市の大きな特色である映画・映像関連企業との連携・協力によるまちづくりを推進します。

◆農商連携の取組による産業の振興

地場農産物を活用した新商品・新製品の開発、販路拡大を市内事業所等と連携する、農商連携の取組により、市内産業の活性化につなげます。

◆産学官連携の推進

相互友好協力協定を締結している電気通信大学等と商工会、市内事業所等が連携し、産学官連携の取組により、市内産業の振興に取り組みます。

◆企業誘致による産業の活性化

民間ノウハウの活用や様々な場面での企業間連携などを通し、企業間交流を促進する中で、企業誘致策を検討し、産業の活性化に取り組みます。

まちづくり指標

まちづくり指標	現状値	目標値
映画・映像関連企業と連携した取組の件数	8件 (平成23年度)	10件 (平成30年度)

基本計画事業

No.	64				重点3		
事業名	「映画のまち調布」の推進【再掲】			区分	継続	担当課	産業振興課
事業の概要	市内映画・映像関連企業との連携を図りながら、フィルムコミッション事業、各種映画関連イベントを実施するとともに、映画関連企業の映画・映像に関する取組の情報発信を行い、「映画のまち調布」のPRに取り組みます。						

※年度別計画及び事業費は112ページ参照



参加と協働の視点 ～市民等に期待される役割～

- 市民は、バイ調布運動（市内消費）に協力します。
- 事業者は、魅力ある商店街づくりや快適で安心して買物ができる環境づくりに努めます。

施策17 魅力ある観光の振興

目的	対象	市民, 来街者
	意図	市民がまちに愛着と誇りを持つ 多くの来街者が市内を回遊する

施策の方向と基本的取組の体系

地域資源の魅力の向上と積極的な活用により、市民がまちに愛着と誇りを持ち、多くの来街者からも訪れたいと思われる、にぎわいのあるまちづくりを進めます。

施策17	魅力ある観光の振興
	17-1 「映画のまち調布」の推進
	17-2 地域資源を活用したにぎわいの創出
	17-3 特色ある観光情報の発信

現状と課題

- 調布市では、昭和8年に多摩川撮影所（現：角川大映撮影所）が設立されて以来、映画関連事業所の集積が進み、昭和30年代には「東洋のハリウッド」と称されるほど映画のまちとして発展を遂げました。現在でも40社以上の映画・映像関連企業が立地しており、映画やテレビドラマ等の撮影や制作が盛んに行われています。
- 市内には、四季折々のイベントを開催している「都立神代植物公園」や、奈良時代に建立された関東屈指の古刹である「深大寺」があり、深大寺周辺には「深大寺そば」の専門店が並び、都内でも代表的な観光スポットとなっています。
- NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」の放送をきっかけに、深大寺周辺など調布市を訪れる観光客が増加しました。また、平成22年5月には旧甲州街道沿いに調布市観光案内所「ぬくもりステーション」を設置し、観光情報の発信や来街者の案内などを行っています。



- 味の素スタジアムは、サッカーJリーグの「FC東京」の本拠地となっており、サッカーの試合のほか、様々なコンサートやイベントの開催、映画のロケなどでも使用されています。また、平成25年にはスタジアムをメイン会場として「スポーツ祭東京2013」が開催されます。
- 調布市の魅力をより高めるため、既存の地域資源を磨き上げるとともに、地域特性を生かした新たな資源を掘り起こすなど、市全体の地域資源の魅力向上に向けた取組を推進する必要があります。

✚ 基本的取組の内容

17-1 「映画のまち調布」の推進

◆映画・映像をつくるまちの推進

地域資源を活用したフィルムコミッション事業を推進するとともに、市民・事業者等と連携・協力した調布ジュニア映画塾や高校生フィルムコンテスト、商店会CMの制作など、映画・映像関連企業が集積する特徴を生かし、映画・映像をつくるまちを推進します。

◆映画・映像を楽しむまちの推進

市民参加の実行委員会で運営する調布映画祭や子どもたちの世界映画祭「キンダー・フィルム・フェスティバル」などを開催するとともに、市民・団体等による映画関連イベントの開催を支援します。

◆映画・映像で学ぶまちの推進

映画・映像関連資料の収集・保存・展示をはじめ、映画をテーマとした講座、講演会や平和をテーマにした映画上映会、子ども映画会など、映画・映像を通して学習する機会を提供するほか、映画・映像づくりやワークショップなど、「映画のまち調布」ならではの取組を進めます。

◆映画・映像関連企業と連携した地域活性化

映画イベントの開催や貴重な映画・映像資料の公開をはじめ、日活映画俳優の手形モニユメントの展示や映画のまち調布を巡るツアーの実施など、映画・映像関連企業と連携した、特色ある地域活性化の取組を推進します。

まちづくり指標

まちづくり指標	現状値	目標値
ロケ支援件数	45件 (平成23年度)	100件 (平成30年度)

基本計画事業

No.	64						重点3	
事業名	「映画のまち調布」の推進				区分	継続	担当課	産業振興課
事業の概要	市内映画・映像関連企業との連携を図りながら、フィルムコミッション事業、各種映画関連イベントを実施するとともに、映画関連企業の映画・映像に関する取組の情報発信を行い、「映画のまち調布」のPRに取り組みます。							
年度別計画	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度		
	○フィルムコミッション事業の推進 ○ロゴマークの活用、促進 ○映画関連イベントの実施 ・キンダー・フィルム・フェスティバル ・高校生フィルムコンテストなど ○市内映画・映像関連企業との連携した地域活性化の取組	○継続 ○継続 ○継続 ○継続	○継続 ○継続 ○継続	○継続 ○継続	○継続 ○継続	○継続 ○継続	○継続 ○継続	
事業費(百万円)	7	7	7	7	7	7	7	

17-2 地域資源を活用したにぎわいの創出

◆古刹・深大寺を核とする魅力の発信

深大寺だるま市や深大寺そばまつり・そばキャンペーンなど、古刹・深大寺を核とするイベントや、バラフェスタなど神代植物公園主催の各種イベントの開催を支援するとともに、深大寺観光ボランティアガイドを支援し、深大寺地域の魅力を発信します。また、景観に配慮した観光地にふさわしい街なみの形成や深大寺周辺の環境の整備を推進します。

◆芸術・文化等を通じた魅力の発信

グリーンホールや文化会館たづくり、せんがわ劇場で展開している文化・芸術事業のほか、武者小路実篤記念館・実篤公園、郷土博物館などの地域資源を活用し、調布の魅力を発信します。

◆スポーツイベント等と連携したにぎわいの創出

スポーツ祭東京2013の開催を契機として、イベント開催や観光情報誌等により、調布市の特色あるお土産や特産品など、全国に調布市の魅力をPRします。また、FC東京をはじめ、調布市にゆかりのあるプロスポーツチーム等と連携した地域活性化事業を展開します。

◆特色ある観光事業の推進

調布市観光協会と連携し、地域資源を活用した観光事業を実施するほか、姉妹都市・木島平村との交流事業や水木キャラクターを活用した活性化事業など、特色ある観光事業を推進します。また、東日本大震災に伴う被災地支援を通じた物販イベント等の交流事業を実施します。

まちづくり指標

まちづくり指標	現状値	目標値
深大寺地域など観光振興に満足している市民の割合	76.6% (平成24年度)	80.0% (平成30年度)

基本計画事業

No.	65					
事業名	調布市観光協会事業の促進			区分	継続	担当課 産業振興課
事業の概要	市民がまちの魅力に愛着と誇りを持ち、来街者が回遊し、また訪れたいと思われるような観光振興を目的に、調布市観光協会の活動を支援します。					
年度別計画	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度
	○観光協会の運営支援 (観光協会事業の実施) ※「映画のまち調布の推進」の事業費の一部を含む	○継続 ※「映画のまち調布の推進」の事業費の一部を含む	○継続 ※「映画のまち調布の推進」の事業費の一部を含む	○継続 ※「映画のまち調布の推進」の事業費の一部を含む	○継続 ※「映画のまち調布の推進」の事業費の一部を含む	○継続 ※「映画のまち調布の推進」の事業費の一部を含む
事業費 (百万円)	16	22	22	22	22	22

17-3 特色ある観光情報の発信

◆特色ある観光情報の発信

観光案内所の運営支援のほか、調布市観光協会のホームページ、ブログ、ツイッター、観光マップ、パンフレットなどにより調布市の特色ある観光情報の発信や提供を行います。

まちづくり指標

まちづくり指標	現状値	目標値
調布市観光協会ホームページアクセス数	48万1,099回 (平成23年度)	60万回 (平成30年度)

基本計画事業

No.	65					
事業名	調布市観光協会事業の促進【再掲】			区分	継続	担当課 産業振興課
事業の概要	市民がまちの魅力に愛着と誇りを持ち、来街者が回遊し、また訪れたいと思われるような観光振興を目的に、調布市観光協会の活動を支援します。					

※年度別計画及び事業費は基本的取組17-2「地域資源を活用したにぎわいの創出」を参照



参加と協働の視点 ～市民等に期待される役割～

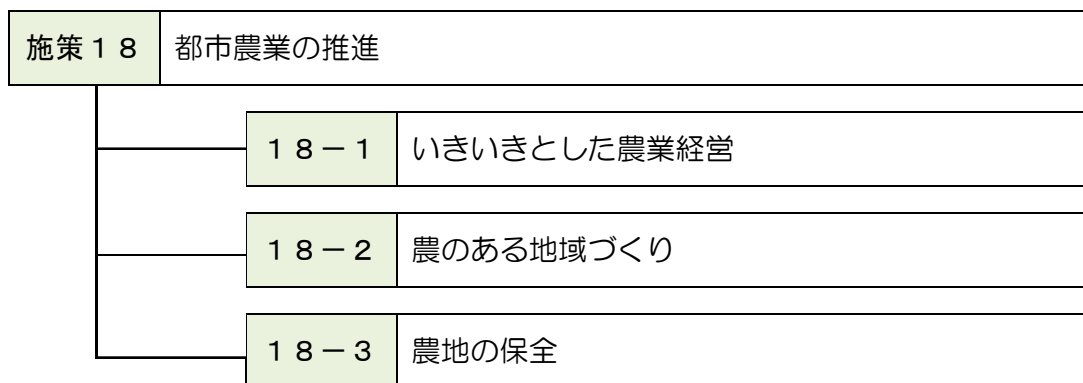
- 市民は、まちの魅力に愛着と誇りを持てるよう、地域資源を大切にします。
- 事業者は、地域資源を大切にするとともに、来街者に対しておもてなしの心を持ち、きめ細かなサービスの提供に努めます。

施策18 都市農業の推進

目的	対象	農業者，農地，市民
	意図	安全でおいしい農産物を生産し，市民がそれを消費することができる 農地を保全する 市民が農業とふれあい，都市農業への理解を深めることができる

施策の方向と基本的取組の体系

農業経営の安定化や後継者の育成を促進し農地の保全を図るとともに，地産地消や農業体験など地域に根付いた農業を推進します。



現状と課題

- 都市における農地は，新鮮かつ安全で安心な農産物の供給という本来の機能だけでなく，災害時における一時避難場所としての役割や，生活環境にうるおいとやすらぎを与え良好な住環境を形成するとともに食育や環境教育の場となるなど，多面的機能を有しています。
- 調布市民意識調査では，「市内に農地が必要だと思っている割合」は，おおむね90%程度で推移しており，農地の必要性に対する市民の意識は非常に高くなっています。
- 市街化の進展や後継者の不足など，農業・農地を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。農家数は，平成12年の360戸から平成22年は295戸に減少しています。
- 調布が含まれる北多摩地域においては，10年前と比べると市場出荷の占める割合が減り，共同直売所やスーパー・小売店・生協への出荷が伸びている状況にあります。これまで調布市では，直売所において販売される市内産農産物のブランド化や認知度の向上による地場農産物の消費の拡大，農家と市民との交流，農地の保全などを通じ，農業の振興に努めてきました。
- 農業経営の安定化や後継者の育成を促進するため，営農意欲の高い農業者に対し支援するとともに，農業体験ファームや市民農園の確保により地域の農業を支えていく必要があります。

✚ 基本的取組の内容

18-1 いきいきとした農業経営

◆農業経営の支援

認定農業者などの農業経営に意欲ある農業者が農業を継続できるよう支援します。

◆有機質栽培の推進

市民ニーズの高い安全・安心な農産物の品質の向上と供給を図るため、有機質栽培の推進などの取組を支援します。

まちづくり指標

まちづくり指標	現状値	目標値
認定農業者の人数	10人 (平成23年度)	30人 (平成30年度)

基本計画事業

No.	66					
事業名	農業経営の支援	区分	継続	担当課	農政課	
事業の概要	認定農業者などの高い経営意欲を持った農業者に対し、農業施設整備への支援を実施し、都市農業の経営力を強化します。					
年度別計画	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度
	○「都市農業育成対策事業」を活用した農業者への支援	○継続 ○「都市農業経営/パワーアップ事業」を活用した営農団体等への支援	○継続	○継続	○継続	○継続
事業費(百万円)	6	19	6	6	6	6

18-2 農のある地域づくり

◆市内農産物の直売の促進

より多くの市民が市内で生産された安全・安心で新鮮な農産物を手に入りやすくするとともに、市内における消費の拡大を図るため、JAや地元商店街をはじめとする関係機関と連携し市内農産物の直売をより促進します。

◆多様な農業体験の場づくり

市民が農家の指導を受けながら農作業を楽しむことができる体験ファームの拡充や、農作業を通じて自然に親しみながら生産の喜びを味わうことができる市民農園の確保などにより、市民が農業とふれあえる機会づくりを推進します。

第3編 分野別計画

◆都市農業を生かした食育の推進

農作物の収穫までの過程を知ってもらい、農業の大切さを体感してもらおう学童農園やふれあい体験農園の実施、消費者と生産者の交流を通じた食育の推進、調布産農産物を取り入れた学校給食の実施など、都市農業を生かした食育を推進します。

まちづくり指標

まちづくり指標	現状値	目標値
農業体験ファームの数	4 園 (平成 23 年度)	8 園 (平成 30 年度)

基本計画事業

No.	67						
事業名	農業体験ファームの充実			区分	拡充	担当課	農政課
事業の概要	市民に対する農業体験の場を確保するとともに、農業に対する理解を深め、良好な農地の保全を図ることを目的として設置する農業体験ファームの拡充を図ります。						
年度別計画	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	
	○農業体験ファームの管理運営補助(5園)	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続
事業費 (百万円)	2	6	6	3	7	3	

18-3

農地の保全

◆都市農地の保全

都市農地を保全していくため生産緑地地区^{*}の追加指定を行うとともに、農業経営の支援や市民農園・農業体験ファームの活用により、都市農地の保全・確保に努めます。

※生産緑地地区

市街化区域内にある農地などが有する緑地機能に着目し、公害又は災害の防止、農業と調和した環境づくりに役立つ農地を保全することで、良好な都市環境を形成するための都市計画の制度

◆里山の保全と活用

農地保全だけでなく、市内でも唯一里山として残されている地域について、自然環境の保全など総合的な観点から、市民との協働による保全・活用を図ります。

まちづくり指標

まちづくり指標	現状値	目標値
生産緑地地区の年間追加指定件数	4 件 (平成 23 年度)	30 件 (6 か年累計) (平成 25~30 年度)

基本計画事業

No.	66				
事業名	農業経営の支援【再掲】	区分	継続	担当課	農政課
事業の概要	認定農業者などの高い経営意欲を持った農業者に対し、農業施設整備への支援を実施し、都市農業の経営力を強化します。				

※年度別計画及び事業費は115ページ参照

No.	67				
事業名	農業体験ファームの充実【再掲】	区分	拡充	担当課	農政課
事業の概要	市民に対する農業体験の場を確保するとともに、農業に対する理解を深め、良好な農地の保全を図ることを目的として設置する農業体験ファームの拡充を図ります。				

※年度別計画及び事業費は116ページ参照



参加と協働の視点 ～市民等に期待される役割～

- 市民は、農業体験などを通じて都市農業に対する重要性への理解を深めます。
- 事業者は、農地の適切な維持・管理に努めるとともに、市民と農業がふれあえる場づくりに努めます。

第3編 分野別計画

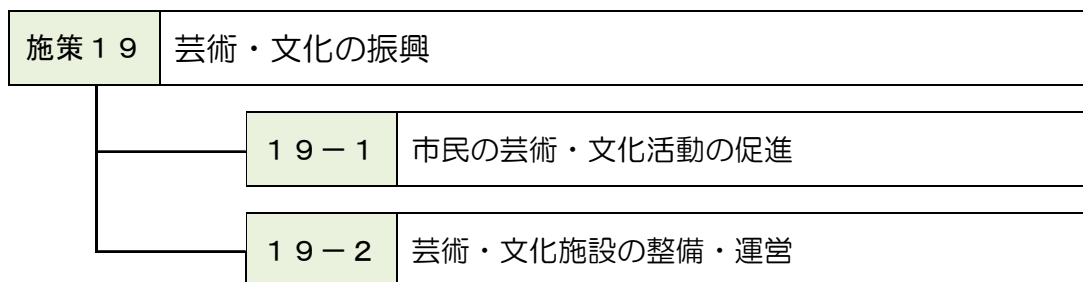
6-2 調布らしい芸術・歴史文化が身近に感じられ、新たな世代に受け継がれていくまち

施策19 芸術・文化の振興

目的	対象	市民
	意図	芸術・文化にふれる機会が提供され、芸術・文化活動が活発になる

✚ 施策の方向と基本的取組の体系

市民が芸術・文化を日常的に身近なものとして楽しみ、また、自らいきいきと芸術・文化活動を行えるような環境を整備することにより、文化の香り高い、市民文化をはぐくむまちづくりを進めます。



✚ 現状と課題

- 調布市では、文化会館づくりやグリーンホール、せんがわ劇場をはじめ、市内各地域で映画、演劇、音楽など多彩な芸術・文化事業を実施しています。映画・映像の分野では、「調布映画祭」や「キンダー・フィルム・フェスティバル」など映画・映像に関する様々な催しを開催するなど、「映画のまち調布」の推進に取り組んでいます。また、音楽・演劇の分野では、世界的に活躍する著名なアーティストを多数輩出している桐朋学園や市内在住の著名な音楽家が率いる演奏団体と連携した取組など、市民が芸術・文化にふれる機会の確保に努めています。
- 平成24年6月に、実演芸術の振興を図り、もって心豊かな国民生活と活力ある地域社会の実現等に寄与することを目的とした劇場、音楽堂等の活性化に関する法律が施行されました。これにより、地方公共団体では取り組むべき事項を明確にし、劇場、音楽堂等を取り巻く環境の整備を進める必要があります。
- 仙川地域は文教施設が数多く、商店街通りに楽器の名前を冠するなど芸術文化に親しむ土壌があります。せんがわ劇場は舞台芸術の創造及び発信の拠点として市民や地域と協働し、芸術・文化によるまちづくりの一層の推進に取り組んでいます。
- 市内では、市民による数多くの芸術・文化団体が活発に活動しており、その成果は市民文化祭をはじめ様々な機会に披露されています。今後も引き続き、より多くの市民が優れた芸術・文化にふれたり、気軽に芸術・文化活動に取り組むことができるよう、活動の場や発表の機会を適切に確保するとともに、芸術・文化を通じた市民や団体の交流を促進する必要があります。

○文化会館たづくりやグリーンホールは施設の竣工から一定の年数が経過しており、多くの市民が安全・快適に使用できるよう、適切な維持補修を計画的に実施していく必要があります。

✚ 基本的取組の内容

19-1 市民の芸術・文化活動の促進

◆芸術・文化にふれる機会の確保

公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団や関係機関との連携のもと、市内の芸術・文化資源や人材を活用するなど、市民ニーズに合わせた多種多様な芸術・文化事業を実施し、市民が身近に芸術・文化にふれることができる機会の確保に努めます。

◆芸術・文化活動の場の確保

市民の自主的な芸術・文化活動の活性化にも繋がるよう、文化会館たづくりやグリーンホール、せんがわ劇場、公民館、コミュニティ施設などの活用により、活動の場の確保や市民団体の活動を支援します。

◆芸術・文化を通じた市民交流の促進

調布市文化協会を中心に実施する市民文化祭をはじめ、市民講師による文化実技講座など、市民文化の向上を図る事業を展開する中で、芸術・文化を通じた市民や団体の交流を促進します。

◆芸術・文化活動に関する情報の提供

芸術・文化活動について多くの方に関心を持っていただけるよう、公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団やせんがわ劇場が発行する広報紙のほか、サークルガイドブックやさがす見つけるシステムなど、市の様々な情報媒体を活用したきめ細かな情報提供に努めます。

◆芸術家・文化人や地域資源との連携によるまちの魅力づくり

音楽、演劇、映画などの調布にゆかりのある芸術家や文化人、桐朋学園、映画映像関連企業、また、せんがわ劇場の運営ボランティアなど、地域資源である人材や団体との連携協力した取組の推進により、地域の魅力を高めるとともに、新たな芸術家・文化人の支援に取り組みます。

まちづくり指標

まちづくり指標	現状値	目標値
1年間で芸術文化を鑑賞、または自ら芸術文化活動を行った市民のうち、市内公共施設を利用した市民の割合	56.8% (平成24年度)	60.0% (平成30年度)

基本計画事業

No.	68						
事業名	芸術・文化事業の実施（文化会館たづくり・グリーンホールの指定管理事業及び補助事業）			区分	継続	担当課	文化振興課
事業の概要	文化会館たづくり及びグリーンホールでの音楽、演劇、映画などの鑑賞及び参加型の事業を実施します。 ※事業費については、文化会館たづくり及びグリーンホールの施設管理を含む指定管理料と財団の自主事業に対する補助金を計上しています。						
年度別計画	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	
	○文化会館たづくり指定管理事業 ・芸術・文化の振興事業 ・施設の管理運営他	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
	○グリーンホール指定管理事業 ・芸術・文化の振興事業 ・施設の管理運営他 ○財団独自・共催事業	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
事業費 (百万円)	985	985	985	985	985	985	

No.	69						
事業名	せんがわ劇場のあるまちづくりの推進			区分	継続	担当課	文化振興課
事業の概要	せんがわ劇場の開館以来培ってきた地域団体や大学等との連携、及び市民サポーターとの協働を進め、地域の魅力を高め、地域とともにまちづくりを推進します。						
年度別計画	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	
	○舞台芸術振興事業の実施	○継続	○継続	○継続	○継続	○開館10周年記念事業の実施	
	○施設・設備の維持管理	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
事業費 (百万円)	82	82	82	82	87	85	

19-2 芸術・文化施設の整備・運営

◆活動拠点となる施設の適切な維持管理・運営

市民の自主的な芸術・文化活動の場となる文化会館たづくりやグリーンホール、せんがわ劇場などの施設の適切な維持管理と、より効果的で効率的な運営を推進します。

まちづくり指標

まちづくり指標	現状値	目標値
文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場の施設利用率（ホール系・会議室系）	ホール系 81.2% 会議室系 66.2% （平成23年度）	ホール系 82.0% 会議室系 70.0% （平成30年度）

基本計画事業

No.	70						
事業名	文化会館たづくりとグリーンホールの維持・補修			区分	拡充	担当課	文化振興課
事業の概要	文化会館たづくり及びグリーンホールについて、計画的に改修を行います。						
年度別計画	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	
	○文化会館たづくり施設改修工事等	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
	○グリーンホール施設改修工事等	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
事業費 (百万円)	228	351	410	313	279	268	



参加と協働の視点 ～市民等に期待される役割～

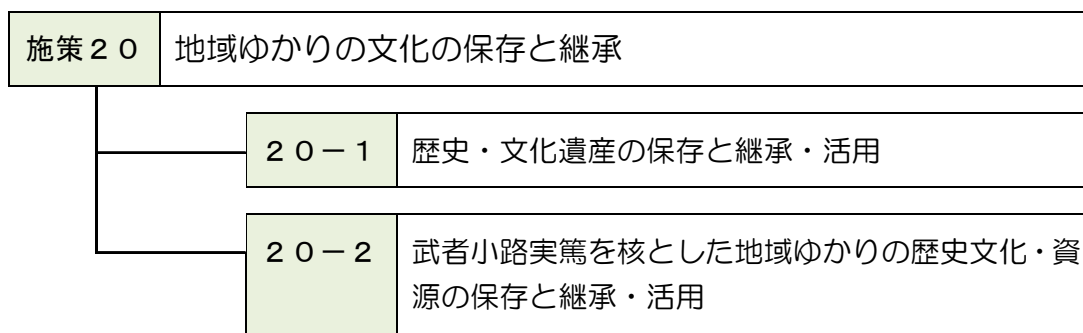
- 市民は、自らの関心や生活スタイルに合わせ、芸術・文化の鑑賞や芸術・文化活動に参加します。
- 事業者は、地域特性に合わせて、市民が芸術・文化にふれる機会や場の提供に協力します。

施策20 地域ゆかりの文化の保存と継承

目的	対象	市民, 文化遺産
	意図	文化遺産や伝統を後世に伝え, 郷土への愛着をはぐくむ 文化遺産を保存し, 学習素材やまちづくりに活用する

施策の方向と基本的取組の体系

歴史や地域ゆかりの文化・伝統を後世に残し, 幅広い世代がふれることができるための基盤整備を推進します。



現状と課題

- 市内には, 郷土の歴史や文化・自然に関する様々な資料を展示している郷土博物館や, 明治から昭和にかけて文学や芸術をはじめ幅広い分野で活躍した武者小路実篤の生涯と業績を紹介する武者小路実篤記念館, 実篤公園などの施設があります。
- 市内に残る歴史文化遺産は, 次の世代に着実に継承すべき貴重な財産であり, ふるさと調布に対する愛着をはぐくむ重要な地域資源です。このため, 文化財の所有者や関係する団体などと協働し, これらの歴史文化遺産の適切な保護と活用に努める必要があります。
- 縄文時代晩期の祭祀にかかわる, 国史跡の下布田遺跡については, 保存用地の取得を進めるとともに, 整備と活用について検討しています。同じく国史跡の深大寺城跡については, 今後は国及び東京都と調整を図りながら第3郭を含めた整備と活用を検討していくことが課題となっています。また, 国登録文化財である真木家住宅については, 建物とともに美術・調度品についても保存・管理に努めています。
- 郷土博物館では, 展示や講座・講演会等の事業実施により, 市民に地域ゆかりの歴史や文化遺産に触れる機会を提供しています。また, 祭ばやし保存大会を開催し, 地域の伝統芸能に触れる機会を提供しています。深大寺水車館では, 水車の公開・利用によって, 郷土の伝統文化を継承しています。

武者小路実篤記念館



- 武者小路実篤記念館は、「実篤・白樺・新しき村」に関する資料収集、収蔵品の展示、多様な事業、データベースによる情報提供、調査研究、レファレンスを行っています。
- 深大寺地区を対象として、地域住民が主役となって文化遺産などの地域資源を保存・活用する「地域まるごと博物館（エコミュージアム）※」の考え方について啓発を推進しています。今後は市民が主体となった取組が必要です。

※地域まるごと博物館（エコミュージアム）

人々が生活している地域全体を博物館としてとらえ、その地域の歴史・文化・自然・生活・産業などの環境そのものを調査・研究対象とし、地域資源を現地において保存・活用することによって、地域社会の発展に寄与しようとする考え

✚ 基本的取組の内容

20-1 歴史・文化遺産の保存と継承・活用

◆文化財等の保存と活用

国史跡である下布田遺跡の保存用地の取得と整備・活用や、深大寺城跡の整備・活用の検討に引き続き取り組みます。国登録有形文化財（建造物）である真木家住宅については、隣接する公園等との一体的な活用に向けて検討していきます。また、祭ばやし保存大会を開催し、郷土芸能の保存や後継者の育成を支援します。

◆地域ゆかりの歴史・文化遺産等の活用と継承

郷土の歴史・文化遺産や地域ゆかりの著名人の文化・芸術活動等について、展示・普及事業を推進します。また、郷土の歴史・文化遺産に関する資料を調査・研究・収集・保存し、後世に継承していきます。

◆地域まるごと博物館の推進

地域まるごと博物館（エコミュージアム）の取組について、これまでの成果を生かし、市民が主体となった取組を検討・促進していきます。地域まるごと博物館の考え方について情報を発信し、普及、啓発を図ります。また、この考え方に基づく地域資源として、深大寺水車館や深大寺城跡をはじめ、歴史・文化価値のある民間施設等の利用も検討するとともに、貴重な文化財等、地域資源の保存・活用に取り組みます。

まちづくり指標

まちづくり指標	現状値	目標値
文化遺産の数（国・都・市指定等文化財）	58件 （平成23年度）	79件 （平成30年度）

基本計画事業

No.	71						
事業名	国史跡下布田遺跡の整備・活用			区分	継続	担当課	郷土博物館
事業の概要	縄文時代晩期の下布田遺跡を有効活用するため、公有化事業を実施するとともに、各種調査、保存の検討を進めます。						
年度別計画	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	
	○保存・整備に関する検討	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
	○用地取得	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
	○史跡内外確認調査の実施	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
	○外部団体発掘資料の再整理	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
○史跡の維持管理と周知	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続		
事業費(百万円)	52	52	52	52	52	52	

No.	72						
事業名	郷土の歴史・文化を核とした展示・普及事業の推進			区分	継続	担当課	郷土博物館
事業の概要	郷土の歴史と伝統文化に関する調査・研究や資料の保存を行うとともに、身近な地域の歴史について学ぶことができる展示・普及事業を推進します。						
年度別計画	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度	
	○展示・普及事業の推進	○継続 ・開館40周年記念特別展	○継続 ・市制施行60周年記念特別展	○継続	○継続	○継続	
	○「子どもはくぶつかん」の企画実施	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
	○学習機会についての情報発信	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
	○地域ゆかりの著名人に関する事業の実施	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	
事業費(百万円)	3	3	4	3	3	3	

20-2

武者小路実篤を核とした地域ゆかりの歴史文化・資源の保存と継承・活用

◆武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開

武者小路実篤記念館では、実篤に関する展示や講演会等の普及活動に取り組み、実篤研究の情報収集発信基地としての機能を充実させます。また、市内全域の子どもたちに積極的な働きかけを行うことによって、良質な文化に触れ、豊かな心をはぐくみ、郷土に愛着と誇りを感じることができるよう努めます。

◆武者小路実篤記念館収蔵資料の整備と保存

武者小路実篤の書画や自筆原稿など、収蔵品や資料の収集、整理、保存、修復を行い、後世に継承していきます。

◆武者小路実篤記念館及び実篤公園の施設の整備

実篤記念館における展示環境の維持、収蔵品の保全等のため、施設全体の改修・整備を進めます。隣接する実篤公園については、維持保全のための公園管理計画策定や、管理棟の建替え検討などに取り組みます。

まちづくり指標

まちづくり指標	現状値	目標値
実篤記念館の入館者数（実篤公園利用者含む）	30,420人 （平成23年度）	30,500人 （平成30年度）

基本計画事業

No.	73							
事業名	武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開				区分	継続	担当課	実篤記念館
事業の概要	武者小路実篤を核とした特色ある事業を充実させ、地域教育・文化の向上へ貢献し、全国へ特色ある事業の魅力を発信します。							
年度別計画	平成25(2013)年度	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度	平成28(2016)年度	平成29(2017)年度	平成30(2018)年度		
	○展示活動の実施	○継続	○継続 ・開館30周年記念事業 実施	○継続	○継続	○継続	○継続	
○教育・普及事業の実施	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続	○継続		
事業費 (百万円)	11	12	15	12	12	12		



参加と協働の視点 ～市民等に期待される役割～

- 市民は、地域にゆかりのある歴史・文化について理解を深め、次世代への継承に努めます。
- 事業者は、文化遺産の保存や調査について協力します。